

1	言葉
言葉の力をつけよう（音読2年②） 「方言で書かれた詩「永訣の朝」」	
名	前

★ それぞれの土地の人たちが、同じ地域の人と話をするときに使っ話し言葉のことを「方言」といいます。
生活に根付いた言葉で、微妙な意味や気持ちを表す言葉がたくさんあります。

やってみよう

◆ 次の文章は、宮沢賢治の「永訣の朝」という詩の冒頭部分です。詩のなかに織り込まれている岩手県花巻の方言に、どんな意味が込められているのか想像しながら声に出して読みましょう。

永訣の朝

宮沢賢治

けふのうちに

とほくへ いつてしまふ わたくしの いもうとよ

みぞれが ふつて おもては へんに あかるいのだ

（あめゆじゆ とてちて けんじや）

うすあかく いつそう 陰惨な 雲から

みぞれは びちよびちよ 降つてくる

（あめゆじゆ とてちて けんじや）

青い 蓴菜の もやうの ついた

これらの ふたつの かけた 陶碗に

おまへが たべる あめゆきを とらうとして

わたくしは まがつた てつぼうだまのやうに

この くらい みぞれの なかに 飛びだした

（あめゆじゆ とてちて けんじや）



（後略）

《読んだ回数》

読めたら
色をぬろう！



合計 回
何度も
5回
4回
3回
2回
1回

朗読

暗唱